

# 名寄・留萌地方の庭木の種類

齋 藤 晶

庭は我々の日常生活に憩とやすぎをあたえ、明日への活力を養ってくれる。最近、各家とも庭造りが盛んになってきたことから、道産、道産外樹種をとわず多くの樹木が庭木として植えられるようになってきた。だが一般には、どのようなものが植え育てられているかについてはあまり知られていない。

当场では、環境緑化樹の開発と育成を進めるため、昭和 50～53 年にかけて、上川・留萌両支庁管内の一部の地方における造園樹の実態調査を行った。この結果を紹介する。

## 調査地の概要

### 調査地

多雪地帯の名寄市（内陸部）と冬の季節風が強く、しかも気象条件が厳しい留萌市（沿岸部）で調査を行った。

### 気 象

調査地を代表する最寄の測候所の観測結果から樹木の生育に直接影響をあたえる気象要素を引用した（表 - 1）。

### 庭の現況

調査を行った各家の庭の造り方は、大体似通っている。庭の全体に火山灰性の砂質土壌を約 30～40cm の厚さに客土し、周囲に庭木を配植している。また、中央には芝を生やし、飛石を配置している。

## 調査方法

あらかじめ、100 木以上の多種にわたる樹木が植えられている庭を支庁、林業指導事務所に依頼し、両市内から 3 ヲ所ずつ選定した。

これらの庭に植えられている樹木の種類、諸害の発生状況、装飾的な要素として花、実、紅

表 - 1 調査地付近の気象

調査地	気 温		最 深 積 雪 量 cm	年 平 均	
	最 高	最 低		風 向	風 速 m/S
名 寄	33.1	- 28.1	84	S W	2.3
留 萌	32.8	- 18.9	68	ESE	5.0

北海道の気象（昭和 54 年）

(黄)葉などの特性, また, 個人的な庭木の好みについて調査を行った。

さらに, 近郊の山野に自生分布し, 庭木として適性があると考えられる樹木を, つぎの条件を参考にして調査した。

1. 樹形が整っている。
2. 樹皮や幹の姿がよい。
3. 葉の形態がよく, 季節変化に富む。
4. 花の形態や色彩がよい。
5. 実の形態がよく, 野鳥の食餌になる。
6. 諸害に抵抗性が強い。

## 調査結果

### 庭木の種類

調査を行った両市内に植えられている庭木の総数は 104 種(道産樹種 60 種, 道産外樹種 44 種)で内訳は名寄市内だけに植えられているもの 19 種, 留萌市内 16 種, 両市に共通して植えられてい

表 - 2 両市内の庭に植えられている樹種

調査地	木 高 類 (10m以上)	小高木類 (5~10m)	低 木 類 (5m以下)	小低木類 (含むつる性)	計 (種)
名寄市内	イチョウ, チョウセンゴヨウ, ヨーロッパトウヒ, アンズ, イタヤカエデ, ダケカンバ, オヒヨウ, ドロノキ	ハイマツ, モンタナマツ, オウゴンヒバ	タカネナナカマド, ホザキシモツケ, ヤマハギ, キンロバイ, クロフネツツジ, ハクモクレン, ナツグミ	トショウ	19
留萌市内	ハウチワカエデ, ネグンドカエデ, トゲナシニセアカシア, クリ	チシマザクラ, イロハカエデ	キバコデマリ, マルバシモツケ, エゾスグリ, ハナズオウノリウズキ, アジサイ, メギヒロハノヘビノボラズ, ナワシログミ, サラサドウダン		16
両市共通	イチイ, アカエゾマツ, トドマツ, キタゴヨウマツ, ストロブマツ, ニオイヒバ, ナナカマド, ミズギ, エゾヤマザクラ, ヤマモミジ, イヌエンジュ, ニセアカシア, シラカンバ, ケヤマハンノキ, ヤチダモ, ミズナラ, カシワ, キタコブシ, ホオノキ, ハルニレ, ウンリュウヤナギ, キササゲ, キハダ, カツラ, ハクウンボク	キャラボク, イトヒバ, サワラ, スモモ, ベニシダレ, アオシダレ, ハシドイ	ホザキナナカマド, ボケ, ヤマブキ, コキヤナギ, ハマナス, イヌツゲ, ウメモドキ, ミヤギノハギニシキギ, ツリバナ, エゾムラサキツツジ, ヤマツツジ, ムラサキヤシオ, ドウダンツツジ, レンゲツツジ, ハクサンシャクナゲ, ライラック, キバナシャクナゲ, レンギョウ, シモクレン, ミヤマイボタ, アキグミ, テマリカンボク, カンボク, タニウツギ, エゾニワトコ, ネコヤナギ, イヌコリヤナギ, サンショウ, ムクゲ, エゾユズリハ, サトザクラ	ミヤマビャクシン, ベニシタン, フジ, ツルウメモドキ, ツルマサキ	69
					(104)

・は道産外樹種, ( )は合計

表 - 3 庭木の構成

調査地	居住者	庭木の本数				合計
		高木類 本	小高木類 本	低木類 本	小低木類 本	
名寄市内	A	42	17	57	7	123
	B	55	20	80	8	163
	C	44	15	64	6	129
	平均比率	34%	13%	48%	5%	100%
留萌市内	A	52	16	61	8	137
	B	54	17	63	10	144
	C	51	16	60	8	135
	平均比率	37	12	44	7	100

るものは69種であった(表-2)。

また、樹木の形状からみた庭木の構成は、高木類が名寄市内では平均34%(留萌市内37%)、小高木類13%(12%)、低木類48%(44%)、つる性を含む小低木類5%(7%)で、両調査地ともほぼ似通った傾向がみられた(表-3)。

#### 諸害の発生

名寄市内では雪肥、留萌市内では冬の海風による被害を防ぐため、庭木には小径材、根曲竹、荒むしろで保護した簡易な冬囲いを行っている。雪肥や海風の影響をうけて樹冠が偏形したり、被の折損や枯死が生じ易い樹木は、イチヨウ、イトヒバ、オウゴンビバ、ストロームマツ、ニセアカシア、サトザクラ、ヤマブキ、ライラック、シモクレン、ムクゲなど道産外樹種に多くみられた。しかし道産樹種には、あまりみられずツツジ類、サンショウの一部が若干被害をうけたにすぎなかった。

これらの樹木には季節外の落葉や胴・被枯性の被害がみられ、罹病被にはリンゴカキカイガラ、ニセアカシアノアブラムシの発生がみられた。

#### 装飾的な要素

常緑針葉樹は庭の主景木となっている。この景観を引き立てるため、添景木として高・低木類のナナカマド、カエデ類、ツツジ類、ハシドイ、ボケ、ヤマブキ、キバコデマリ、ユキヤナギ、ニシキギ、ツリバナ、ハクサンシャクナゲ、カンボク、ベニシタン、マユミ、ソルウメモドキなどの広葉樹が植えられている。これらは季節変化に富み、花や実、葉の色彩がよく、一部は野鳥の食餌植物にもなっている。

#### 庭木の好み

庭木の好みは個人の趣味、趣向によって異なる。各調査地の居住者6名を対象にして聞き取りを行った。一般に親しまれているものは、イチイ、アカエゾマツ、ツツジ類、カエデ類、カンバ類、ハクサンシャクナゲ、エゾヤマザクラ、ハクモクレン、キタコブシ、ユキヤナギ、アジサイ、レンギョウ、エゾスグリ、アキグミ、エゾニワトコなど身近にある樹木であった。

表 - 4 庭木に適する自生樹木

区 分	樹 種	形 態	装 飾 的 な 要 素			野鳥の 食飼植物
			花	実	紅(黄)葉	
高木類	アズキナシ	落 葉				
	エゾノウワミズザクラ	〃				
	シウリザクラ	〃				
小高木類	エゾノコリンゴ	〃				
	ヤマグワ	〃				
	オガラバナ	〃				
低木類	ハイイヌガヤ	常 緑				
	エゾアジサイ	落 葉				
	ミヤマガマズミ	〃				
	オオカメノキ	〃				
	マユミ	〃				
	ヒロハツリバナ	〃				
	オオツリバナ	〃				
	ナニワズ	〃				
	アカミノイヌツゲ	常 緑				
小低木類	ハイイヌツゲ	〃				
	ツルツゲ	〃				
	フツキシソウ	〃				

は特によい

#### 庭木に適する自生樹木

現在庭木として使われていないが、生育状況や装飾的な要素などから、庭木に利用できると考えられるものを見いだすため、両調査地近郊の山野に自生分布する樹木の調査を行った。この結果、常緑針・広葉樹ではハイイヌガヤ、ハイイヌツゲ、アカミノイヌツゲ、ツルツゲ、フツキシソウの5種、落葉広葉樹ではアズキナシ、エゾノウワミズザクラ、シウリザクラ、エゾノコリンゴ、ヤマグワ、オガラバナ、エゾアジサイ、ミヤマガマズミ、オオカメノキ、マユミ、ヒロハツリバナ、オオバツリバナ、ナニワズの13種であった(表-4)。

以上、名寄、留萌両市内の主な庭に植えられている樹木の把握と生育状況、さらに自生樹木の庭木としての適性などについて調査検討を行った。今後とも道内の山野に自生分布する未利用樹木の環境緑化樹としての利用開発試験を進めて行く予定である。(樹芸樹木科)